

井上達男様

この度はわざわざご支援ありがとうございます。突然のことで、こりゃ、なんだ、とびっくりされたことでしょう。小生にとって著作というのは、登頂記録のようなもので、えっ、こんな山に登っていたのか、と驚いてくだされば、幸いとすところですよ。

2009年11月のロブチン峰(6,805m)の登頂成功、改めてお祝い申し上げます。山岳会の会長としての職責は大変な重荷でしょうが、まずはこの度の学術登山隊が成功して、ほっとされたことでしょう。田中の信さんが、井上君のリーダーシップ、マネジメント力、実行力には驚いた、とメールで伝えてきました。

坂本君の追悼会に出席して、久しぶりに山岳会の諸先輩方にお会いしました。それにしてもみんな元気だな、というのが第一印象でした。それと、昔からの山岳会の独特の雰囲気にも久しぶりに接しました。これはなんともいわく言い難い雰囲気、いくら歳をとっても、先輩は先輩、後輩は後輩、という、長らく山岳会にご無沙汰していると、はなはだ異様に感じられる雰囲気でもありました。

今後、山岳会はいかにあるべきか、何をめざすべきか、いろいろ考えておられることでしょう。やはり第1は、大学山岳部のサポート、大学における山岳活動の支援・普及にあると思われま。登山という行為に何か崇高な意義があるのであれば、それは若い人々に伝えられ、継承されていかなければならない、と考えるからです。

たまたまオーストリア山岳会のメンバーになっていますが、青少年に対する登山教室やいろいろな登山活動が広く行われていることに驚かされます。根本には豊かな自然感を養いたいという強い思いがあるようです。

なんだか敷居が高くなったようで、山岳会の会合にもほとんど出なくなりましたが、来年3月で退職したら自由になりますので、もっと出かけていくことにしましょう。

ともかく山岳会会長としてのご活躍をお祈りしています。

2010年12月23日

増田正勝